

みこむだこ

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
〒140-0001 品川区北品川2-2-10 TEL. 03-3472-4772 FAX 03-3472-4770
URL: <http://www.japan-city.com/sina/> E-mail: syukuba@cts.ne.jp

迎春

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
会長 堀江 新三

新年明けましておめでとうございます。

昨年も、会員各位及び関係者各位の絶大なるご理解とご協力により、さまざまな事業や行事を行うことができましたことを、この紙面をお借りして、御礼申し上げます。

本年も変らぬご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

さて、長年親しまれています当協議会の「新宿お休み処」も、昨年2月11日にリニューアルし、駄菓子屋「またあした」としてオープンすることができました。

開店当初から現在まで、店番をしてくださっている佐藤成子さんは、地元や子供を大切に考え、毎日子供達に声をかけ、そして時には叱ってくれるといった、またとない素晴らしい人材です。また佐藤さんの娘さんの開発千春さんも手伝いに来てくださり、お陰で、店には毎日子供達の明るい声が絶えません。日頃我々が目標としていた、まちぐるみで次代のまちを担う子供達を育てよう！ という考えが、形として実現できたことを大変喜ばしく思っています。

また、昨年の年頭のご挨拶で、品川宿が全国から注目を浴びている今こそ、品川宿活性化の最大のチャンスと申し上げましたが、昨年秋に、各町会をはじめ地域のみなさんと力を合わせ、非営利特殊法人(NPO)「東海道品川宿」と、株式会社品川道の2法人を設立することができました。

この2法人は、まちづくりを進めていく上でのいわば、車の両輪です。つまり非営利特殊法人(NPO)がまちおこしにつながる企画を立案し、実現までの調整役を担い、事業化された後の実質的な運営は、株式会社が担う、という関係です。そして、空き店舗対策や地元の雇用促進なども加味しながら、収益

性のある事業を展開し、その利益を品川宿に再投資する、そのようなサイクルを生み出そうと意図しています。

その第1号店となる「あぶりや連」「しながわ名物堂」「スタンディングバー連」が9月24日に北品川一丁目の東海道沿いに開店いたしました。営業内容など、くわしくは別項の報告をご一読いただきたいと思います。地域の皆様のご協力をいただき、お陰さまで開店当初より、連日多くのお客様に利用いただいております。

このように昨年から目に見える形でまちが大きく動き出した事例を、新春のご挨拶でご報告できますことを心から嬉しく思っております。

その他、本年もひき続きゴジラ像建設に向け、地元や品川女子学院・各種団体等のご協力をいただきながら進めていくことになろうかと思えます。また交流事業を含め、継続中の様々な活動を精力的に行ってまいります。

私どもまちづくり協議会は本年もひき続き、今こそ品川宿再生の最大のチャンスと位置づけ、全方で活動をして参る所存です。皆様方におかれましても、本年も昨年同様、絶大なるお力添えを賜りますよう、切にお願いを申し上げる次第です。



「あぶりや連」(左)と品川の名物をとりそろえた「しながわ名物堂」(下)

総合学習へのご支援、 ありがとうございました。

品川女子学院 第1学年主任 神谷 岳

「はっぴを着たおじさんがいろいろ教えてくれた」「〇〇屋のおばさん、やさしかった」「××を買うときは、あそこがよい」本年5月、北品川商店街の皆様にご協力いただいた本校行事「品川町歩き」を終えての生徒の感想です。

子どものあり方は、よのなかの動きを写しだす鏡だと申します。ここ数年の本校の入学生を見ておまして、私ども教職員の感じることは、気立てがよく活発な子どもが多い反面、周囲に対するちょっとした気遣いのできない者がいるということでした。登下校の様子を見ておまして、地域の皆様にご迷惑をおかけしている生徒もいるようで、心を痛めておりました。ならば、と考えました。言って聞かせるだけでなく、実際によのなかとふれあい、親や学校以外の広い世界を知って、そこで他者の存在を感じ、共に暮らす作法を考えるきっかけを作ってもらおう、と。

幸い本校の周辺には北品川商店街という、都市化によって地域性がどんどん希薄になっていく社会のなかで、古くからの人と人とのつながりが残っている場があります。入学間もない生徒が、北品川をこれから6年間を過ごす「地元」と感じ、そこに生きる教職員以外の大人たちの目を感じ、つながりを感じて生活していきけるなら、自分の世界に閉じこもりがちな中高生にとって、これに勝る感情教育はないはずで。

冒頭の生徒たちの感想にもありますとおり、お陰様でその目論見は成功したようで、生徒たちも、ここが自分たちの生活の場だという意識、皆さんに気にかけているという意識が芽生えたようです。今後は、商店街を歩いていても知り合いを見つけて「こんにちは」と挨拶ができ、また、自分が生活する学校とその地元のために、心遣いや貢献のできる生徒を育てていきたいと考えています。宿場祭りへの参加や、そこでの「ゴジラ像建設」のための署名活動への参加などは、ささやかですが、その目標に向かっての模索の一つです。

北品川商店街、まちづくり協議会をはじめとする地域の皆様には、今回のこの総合学習の試みのためにいろいろとお竹折りをいただき、ありがとうございました。お願い事を申し上げますと、素早く動いていろんな方面に声をかけて話をまとめて下さる、そんな気さくなフットワークの軽さには、私ども教員も大いに勉強になり、また助けていただきました。歩みはゆっくりですが、来年に向け、また新しい

企画を考えております。今後とも、ご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

第14回宿場まつり。

第14回宿場まつりは今年も9月の最終の土日、25日26日に行われた。土曜日には初めての出し物としてちんどん麻の大御所にきていただき商店街と翌日の宣伝をしてもらいました。数日前は良い天気だったのが日曜日当日は一転して雨模様、朝からスタッフ、町の人、“まつり”への参加の人達もブルーシートをかけたするなど、雨に対する対策や準備でおおわらわでした。雨で心配された人出も時間の経過とともに増え、パレードのスタート時間が近づくと通りには沢山の人であふれてきました。そして実行委員長、高橋区長、警察署長、水戸黄門の飛び猿でおなじみの野村氏が一日署長として挨拶、パレードが始まりました。

品川寺の山伏、品川女子学院のマーチングバンド、交通、防犯、消防関係の各団体、そして扮装の同好会まで出来、過去最高のエントリーとなった江戸風俗町人行列、芝居、阿波踊りのみなさんでパレードをし、その間は雨もやんでくれました。そして品川寺の部屋での休憩。扮装の人達が一同に会して、江戸時代にタイムスリップした感じで、可能であるならばご覧いただけるように出来ればと思います。観光協会の主催で東京湾屋形船一周をリーズナブルな料金で行い、本部にもかなりの問い合わせがありました。

そしていつも人気の抽選会では、今年はクジの発行枚数を例年の1.5倍に増やし、商店街のお店、お客様に幅広く行き渡るように販促部で考え行いました。まつりの前はすごく評判でしたが抽選が始まると当たりの悪さでの不満を口にされる人もでてきました。これは来年の大きな課題として一考が必要と思いました。又、商店街が行っているイベントとしては規模がかなり大きく、問合せの数もすごい数にのぼり対応しきれっていません。さらにお客様、関係者の方々の満足度を高める為には、来年はわれわれの運営の仕方を相談しながらやる必要があると思えました。

